

# 先進地へ研修視察

営農専門委員会

## ～JAが農業経営事業で耕作放棄地対策 集落営農法人化で6次産業取組～

営農専門委員会では、去る10月8～9日に茨城県のJA北つくばと群馬県の農事組合法人「公田」を訪れ、視察研修を実施しました。

鶴岡市農業委員会には、委員が自主的に活動する専門委員会があり、各自で展開しています。ここでは今年度の活動内容を紹介します。

### 1日目

#### JA北つくばの取組み

同JAは、筑西市、結城市、桜川市にまたがる広域農協です。広大な田園地帯に中山間地を抱える姿は、鶴岡市の状況によく似ています。集落営農組織化への合意が難しい等、担い手不足の対応として、平成22年に全国初となるJAによる農業経営事業への参加が開始されました。管内にある農地を守らなければならぬ、手が付けられなくなる前に耕作放棄地に対策を施さなければ担い手を確保できなくなるという使命感に駆られ、赤字覚悟の事業がスタートしたということです。耕



作が不便、農地が不定形等、どうしても借り手が見つからない場合にJAの営農事業で耕作を再開します。長く耕作放棄状態にあった圃場に3年ほどかけて土壌改良を施し、ようやく営農が再開されますが採算ベースに乗せるのは大変なものです。

増える耕作放棄地を野放しにせず、早めに対策を施し、発生を防止することが大切と、力説されています。今後、JA本体の事業から独立し、法人化を目指していく中で、施設野菜等も取り入れ、収入を確保しながら事業を展開していくとのこと。この非常に積極的なJAの取組みを見て私たち農業委員会は応援したいと感じました。

(農業委員 富樫 護)

### 2日目

#### 農事組合法人「公田」の取組み

公田町は前橋市の南部に位置し群馬県の特徴である米麦二毛作経営の地であり、ちようど訪れたこの日から

稲刈りが始まっています。最初に築80年を超す、かつての養蚕農家を改修したという厨房を拝見しました。この厨房は同法人の加工部であり、法人の生産物はもちろん、地元食材を活かし、女性のアイデアをもとに、女性が活躍できる場所であると説明がありました。

農事組合法人「公田」は地域にあつた農業形態を守るため、また安定経営を行うために平成22年1月に集落営農組合から設立されたもので、組合員の高齢化と女性の働く場所の確保、地元農産物の活用とこれからの地域の文化と活性化を強く考えた結果、設立された法人です。「法人化したからこそ可能性が広がり、地域の人達に関わりを持つ事で役目を持つ。みんな力で合わせる事が大事。」との説明に、想いが強く感じられました。

6次産業化とは、生産・



加工・販売の過程をクリアして初めて成立するもの。その中に農業者全員の関わりが必要であり、知恵と夢もまた持たなければならぬものだ」と再確認させられました。

先進事例として取組みを学ばせていただいた研修でありましたが、行動する農業委員としては、「地域で果たす信用や役割も重要になってくる。ぜひともその一助となるよう頑張らなければ」という想いに駆られました。

(農業委員 小笠原 道明)



# 未来へ伝えよう 担い手に期待 山形大生と交流

農業振興・担い手専門委員会

10月25日、農業振興・担い手専門委員会では、「農活！オレらがやらねで誰がやる！」をテーマに、山形大学農学部との学生と交流事業を行いました。

## 耕作放棄地を再生

最初に訪れたのは、羽黒地域にあるコスモス畑です。耕作放棄地を国の事業で再生し、見事なコスモス畑となっていました。普通の作物を作るにはかなり大変な傾斜地なので、コスモス栽培を行っているそうです。

## 菌床しいたげハウス

次は、羽黒地域、丸山成人さんの「菌床しいたげ栽培現場」を見学しました。

現在、しいたげの菌床は40,000弱あり、ハウス8棟を活用し常時2〜3人雇用しながら周年で採取を行っています。参加者から「福島原発事故の影響で、東北管内がかなりのダメージを受けていると聞くと、庄内はどうか？」との問いに、「消費者から見れば、ハウス栽培でも路地もとの重なる面があり、1年半ぐらいの間風評被害はありました。ただ最近になって、やっと単価も持ち直してきている。」と話していました。

## 先進的農業

最後は、米集荷販売業を営む「(株)庄内こめ工房」を訪れ、斎藤一志社長の講話とディスプレイを行いました。

斎藤社長は、「低コストの米を目指すべき」と指摘。「おいしいものをつくれれば売れるだろうと思っても、すごい勢いでこの社会、経済環境が変わっている。外食産業、スーパー、大手がすごい購買力によって安いものを採っている。これが日本の現状である。」と、世界の米の流通過程や米をめぐる状況について話され



ました。また、今後の農業政策に対する考えも提示していただき、参加者一同、最先端の新しい米政策に思いを巡らすことができました。学生からも活発な意見や質問があり、「農業も変革期ですので、一生懸命勉強して、農業経営の見直しが必要です。これからの庄内地方、農村地帯はどういう動きをとれば生き残ることが出来るのか。若い人の柔軟な考えを農業に活かせることを期待しています。」と学生にエールを送っていました。

## 今後に活かすために

今回参加した学生は、卒業後農業関連以外の職業につき人も多いようでしたが、鶴岡で学んだことをこれか

らも活かして頑張ってもらいたいと感じました。また、若い人の考えや感性を農業に取り入れることで、これからの日本の農業も大きく変わっていくことでしょう。今回の交流会をきっかけとして、担い手の確保と農業の振興に役立てたいこうと思っています。

(農業委員 新館 登)





私たち食育・地産地消専門委員会9名と農業委員会会長は、11月26日、鶴岡地域の大山保育園（高橋亨園長）に出向き、「つや姫でおにぎりをつくろう！たべよう！」と銘打った食育教室を行いました。

小さいうちからお米に興味を持ち、魅力を知ってもらおうと、昨年から始めて今年で2回目となります。大山保育園では、49名の年

# つや姫 2年目の挑戦 食育教室

食育・地産地消専門委員会



中児がきちんと座って待っていてくれました。

参加した農業委員の自己紹介の後、お米の話をしました。「お米は大地の恵みの土と自然の豊かな水、そして太陽の恵みをいっぱい受けて、美味しいお米になります。だから、お米を食べると丈夫になり、元氣が出ます。感謝しながら食べよう」「米一粒は田んぼで育てるとおにぎり半分くらいになる。粗末にしないで」と伝えました。

さあ、いよいよ2クラスに分かれての実践です。女性農業委員の「の」の字を



書くようにね」との指導の下、みんな真剣な面持ちで次々と米を研いでいきます。ご飯が炊けると、今度はおにぎりをにぎります。園児5名と委員1名がグループになり、ラップに炊き立てのご飯を乗せて、ラップの上から握ります。小さな手で一生懸命握り、丸や三角の、愛情たっぷりのおにぎりがたくさんできました。

次に、野菜に関する紙芝居を行い、園児から野菜の働きや役割を勉強してもらいました。会場中がお話げがしつかり伝わったと思います。また、即興の「つや

姫体操」では顔と体をほぐしました。

給食を食べながらの園児との交流では、給食に関わってくれたみなさんに感謝の言葉と「いただきます」で



をどんどん口に運ぶ園児たち。「おかわりは？」の声に、ほとんどの園児が「はい」と応えます。食べるスピードはそれぞれ違ってもみんながおいしい笑顔を見せてくれます。その笑顔は私たちに感動を与えてくれるものでした。私たち農家は米を自分の子供のように大事に育てています。美味しいといわれるのが何よりの励み、毎日しっかりとご飯を食べて元気に育ってほしいと願います。米に対する理解を深め、また、地元

の食を知ることで地域に誇りを持つてくれたらと今回の食育教室では感じました。



私たちの活動にご協力くださいました大山保育園の皆さんに深く感謝申し上げます、今後とも更なる食育活動を展開していこうと確認しました。

（農業委員 森 繁太）